





花譜卷之中



正月

万葉集より。やもじもよもよも。冬より二月より  
まで。わといひ。さげむ百花より。ひそむ。都の  
光をもゆふ。百花魁。己未と。雪霜をもすて。君子乃  
操あり。且清香粉氣。もくく。乃もよき。もして。いせ  
めし。故よ和漫也も。寫生。眞絶智。愚賢不肖。とひふ  
て。も。さて古今は人乃既賞せ。ハナリテ。望う乃詠  
を。入けか。も。か。花固を。ひくよハ。か。も。と。か  
梅。か。以て。才一乃上首。ひく。て。人。も。い。事。う。梅

卷中

乃種松解し。大昌紅白乃ひく人以定あり。まうち乃  
承うきあはてひく人也。中よつと白きひく人也。て  
才一乃而之に野よ木多須江柳と尔。又柳柳と云。危難

自物ハヨリ。紅物ハ多き。自物ハシテ膏ゆ。紅物ハ多くあり。亦少くもあり。がシ紅物ハ、い全く。膏  
キ。九月よむ。レ物乃ハタリヤミのより。流膏  
山。カレオツヅキヒツク。ビタヘ乃紅物あり。ウタ  
シトアヒツクセラ物トク。山守平原。タマササ  
ニ温ヨリテウタの達速あり。漸漸。前事モちい  
シ。カシナ物ハ。もモ実を大す。ミヘテ日本ハ。シテ

すありてどうり せあり。どうり うらむありとつ。  
梅ハ黒土沙上山中海島宇那候御ひき乃唐主  
て毛うろくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
都すあく本もち源ヤモシトクム本もくつもよひ  
枝乃ちすみ浦切うらうく。ノは折もううよ海の  
派とおけど源ヤモシ。梅とはぐよハまう乃ぢら桃  
李乃參まつまそとし。ざく農政全書よせり。或曰桃  
乃木乃參といひまくぢりて梅とはぐよし源ヤモシ  
へやまし。梅とづやど源ヤモシ。も乃付雪霜  
つま木とまもす。樹下にしづらきをきて花を守る

と農政全書より。核ハ多り花ひ  
草のれど。すて花ハ多くモテテ。薑根<sup>カク</sup>也  
も。は月よりとく。拾き集めテ。じうむは  
ちゆきよ。とく人すく。のつはと  
く。西福<sup>シキ</sup>。畠<sup>カタ</sup>。柄<sup>ハサ</sup>。又山  
さする。あら尾<sup>アラオ</sup>。まきの。とくがわ。山中<sup>ヤマノ</sup>も  
あし。らうよひく。野<sup>ヤ</sup>。梅<sup>ウメ</sup>。人<sup>ヒト</sup>。乃<sup>ハ</sup>。葉<sup>ハ</sup>。

山茶花<sup>サンザイ</sup>。つときハウリクアケテ。とく。花  
八事<sup>ハチモノ</sup>をかげて。ひよ。まことひからて。やくふう。そ

四時<sup>シヨウ</sup>をかげて。あがす。とく。君子<sup>君子</sup>。乃<sup>ハ</sup>。操<sup>ハシ</sup>。ありと云  
ひし。日本より。も。猪<sup>クン</sup>乃<sup>ハ</sup>。字<sup>ハ</sup>。あやぢりて。つゞ  
こす。拂<sup>ハ</sup>。拂<sup>ハ</sup>。の。本<sup>ハ</sup>。繁<sup>ハ</sup>。氣<sup>ハ</sup>。は。と。年<sup>ハ</sup>。唐<sup>ハ</sup>。も  
わ。又日本記及順和名抄より。つと。木<sup>ハ</sup>。海<sup>ハ</sup>。石<sup>ハ</sup>。梅<sup>ハ</sup>。  
とく。し。ハ。つと。の。ね<sup>ハ</sup>。とく。り。とく。とく。とく。とく。  
乃<sup>ハ</sup>。た。じ。よ。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
あ。け。く。う。と。へ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
あり。あ。ま。も。か。り。と。九。月。ち。花。く。も。あ。り。ん。つ  
ぐ。ま。六。月。よ。は。ぐ。と。つ。ま。う。と。と。と。と。と。と。

正月或稀雨乃中日よりとて漸く而て取年乃  
はたとひく。蚕虫と生をどらとしらとをじ  
つる。赤土とぬれ。沙土よりうるをと  
や。修年はねじさすてねとせうす。元日は赤  
土とぬれ。橘紫山茶乃類れあり。村民山茶  
とかわへんとまよをとりて利。山城八日野  
乃山にてハづとけられ。

猶秀草 又かくとよもじゆ。まほとておますを。ま  
ま家胡蘿蔔はねりま花とよやくとよせを。ま  
ま乃初とひく。がよ元日竹とよ。益までま

席と乃清者と。安城うめ。ま林わらよ。ま  
編鄙うハ獨一枯葉ともひりくハ生也と。從ふもひて  
とうざねあらへ。室月かねまうりと。腰あまて  
まくよめうとひりく。まく事わらひと。脅  
ハリけうち。五月まハ葉敷かれて狼ハヨミ。九  
月ま夜生も。まくきりてあくまうと。あまくま  
し。まくまくと。温とりしヌ草を用ひ。

金盞花 和俗さんさんむと。春乃初もも。  
も美金乃もく。まもまつさばと。まもまくと。子  
子比於ハ虫よ。まくと。まくと。まくと。まくと。

四時常すもあり。故長毛もともす。が草綱曰。湿氣  
は。薑を食すと毒うるとあり。

二月

山礬花 又礬香也。名く。和係ちんらけと日本  
三四尺よす。月よちへさきと紫ちくれ  
もとゆくひく。子よせわ。三霜遠し  
故みりくやく。セラ香とも。ミソシユナ。湿地。植  
きハ根やも。平地よりうる。木よし  
し。又根をあつり多くも。があるする山礬ハ根  
ちやけよし。木よし。他去とめく考へす。

りんじをうける。すこしうる。古今醫統曰。衣と  
あく灰けとぼて蛭かとあく。てある。ハ漆乃漆  
をばハ蟹長也。花史曰。大凡香花ハ糞と云ふ。瑞香  
を詠し。又日毎とみ年月をかたれ。小便とぞみて枯  
列をあく。梅雨の中よし。清干とし。本年  
正月よりうる。又正月二月みどりよし。つまむを  
し。○花丁子。赤色花をちんちんよし。けり夏ハ葉を  
ち。○花丁子。赤色花をちんちんよし。けり夏ハ葉を  
うんすうよし。

杏花 順和名よかくまと。篤信今娶すをあふと

杏子乃唐音たり。唐詩畫譜曰根ありし。ズモとひて  
根より枝をひく花実ありし。○ひく人あり。ひきあり  
ひくハ實ありし。儂民本植す。うきふよこかくみて  
實をとり利をうふ。只栗く。金すもの。がくと。杏に  
ハ切角乃えり。又杏仁と料せみを用ひ。ひくハき  
ハ六代とあり。ひきより花ちかてうきつ。ひく  
うきと見る。えらきと見る。うきと見る。ひくと  
キくのちハけあまく。まわねり。花香花ハ  
紅梅よりひく桃なりけり。杏实をよるは農  
政全書曰實乃熟。うきと見る。固もよ糞土乃ほ確

ちて生實へけり。乃づよう植へし。實をうる  
よい。人亦よをまにてうる。あぢくうる。うる  
うれ。あぢくうる。あぢくうる。二月。根をうる。  
うれやくよ根をうる。とほりて温。氣とひく。一  
説よハまゆとほらみ。うれ。二月。よハまよと  
うれ。三月。よハとほく。うれ。うれ。うれ。根を  
うれ。うれ。とほく。うれ。うれ。うれ。桃乃春。春をうれ  
も實をうれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ  
し桃。よハ似也。

幸夷花 家ハ柳乃ト。花ハ玉華。似て參ス。か  
ほようち白し。主裏多シ。かくあり。ニ  
月よをひ。

小梅 玉子乃ヒ。傍は彼岸梅。是梅の別名  
ナリ。又小梅よゆ。

垂絲梅 ひづん梅。下り花やわらしひづん梅。  
みぞれもあて一新す。下よりひづん梅。乃  
巻よつとす。さく乃梅。巻よつとせせせ  
やう。墨跡よハア。めぐりよあきよふ。根下  
乃茎をひづんし。ひ樹をすよゆきとま株よハア  
あ死とし。

梅 ひづん梅。玉子乃度。花をひづん彼岸梅。う十  
けり返して、いと梅よぬす。うりうりうりう。  
花乃とす。ハあよりて。遅速。う。右回乃。花よひづ  
梅を。め。し。花乃ひづんハ。立春。う。セ。十九日。乃。御  
徒然。まよひづん。ハ。今。平安城。乃。ひづん梅。ハ  
立春。う。六十五日。と。ひづん。立春。う。セ。十。ユ。ヨ。モ  
ア。そ。遅速。ア。う。う。立春。う。六十五日  
と。ひづん。と。ひづん。花。よ。の。花。よ。う。う。遅速。ハ

卷之三

七

又ゆきと稱あり。帝ありびへ様へそらりと  
うさう乃向う。ちくまをすし。びく様すく裏  
ゆとせきりやううううう。びれ酒食乃せりが  
やめたりせりとり。やうせひとり様か紅毛と  
わび。又は車をうしゆ様あり。つせ様へ室  
みくの毛とか紅毛をあく。様はあけ鄉もうちか  
うりとゆ。一絶様乃あくよじゆく。ゆく  
名はとく。修物ハ尾形よじゆく。とくハうりと  
様乃あく。様ふ乃あく様ひく。尾乃尾ハ公  
ノして歎あく。泰之府君塙がすもかをしづる乃

尾と一せん。泰山府君をノソム。あらへ。秦  
り。じそ乃は。もと。とり。泰山府君の事とな  
リ。もよろば。トツ。極。ゆゑ。か。あ。も  
う。も。は。ま。で。か。も。く。も。あ。り。も。み。つ。す。  
い。戸。括。ハ。つ。を。り。私。す。あ。し。毛。褐。乃。ひ。づ。り。よ。望  
き。う。今。さ。え。恩。院。安。升。ナ。ち。り。仁。智。ハ。ト。モ。の。ぬ  
。普。賢。象。の。よ。く。を。り。お。も。き。孫。。繼。孫。延。孫。  
あ。ナ。の。よ。く。を。孫。あ。ナ。弟。孙。あ。ナ。の。不。可。り。う。そ。和  
ま。の。孫。け。ん。う。り。孙。乃。西。あ。こ。よ。レ。右。端。こ  
乃。孫。の。あ。ま。く。ノ。レ。左。端。こ

あり様へとおもひてよらすがふうえうち。夜の雪  
よ川カワノ小舟クモリをそそぐ。小舟クモリのよし孫コノマをいし。あひて  
ある生アラシて孫コノマは金キヨシかくしよ孫コノマとひ家アフミ十般ハチモン。  
花ハナハ八重ハチヨウかくし葩ハナほを。そつソツのむか不ハズト仰アガり。主教  
なりせ携ハサウエと同ドウする事モノ。小ゑくコノイクとまへてすくろ  
ても生アラシし人ヒト乃オノ四月ヨリ五朧ウツラとすくろの花ハナ往  
けり。よりくアラシく。おちり。おがひとまへと被ハサウエり。  
可ハシ内ナカニの極ハシマ手ハタハタの巻ハサマは彼岸ハジマ極ハシマり。因ハシマ國ハシマつと手ハタハタの盆  
摺ハシマ。小コトハちよハハ主ハシマ被ハサウエり。主ハシマよいの極ハシマ千株  
乃オノ並ハシマす。おなめのくわきの玉タマ所ハシマよづづ。主ハシマ

より花ハナハシハシく。うけやし。江エダうそウソハヒ節ハシマ。信濃ヒサシ  
信濃ヒサシの諂ハシマ訪ハシマ。彼岸ハシマ極ハシマ。室園ヒムツヤをましだらう。あ  
ん人ヒト。衣ヒトハタハタ。あく。わく。人ヒト。よ。國ハシマ内ナカニ  
又ハシマき。うち。ちよ。すよ。ゆく。と。あく。うて。更觀  
と。うく。し。し。酒カク院カクエン。西園カクエン。ふ。御カク。す。ゆ。う。而  
と。化根カク。ハ赤土カクタ。よ。どう。ゆ。み。ひ。世カクの。主カク。人ヒト。や。ま。す。よ  
よ。ハ。ふ。の。く。つ。。そ。の。く。ら。林カク。ハ。ま。く。ハ。正。當。う。り。と。孫カク。と。拉  
て。レ。う。い。よ。す。と。ゆ。う。せ。と。ゆ。あ。く。ゆ。み。く。ま。と。拉

下て花を咲かし。花乃ちも  
李花 二月より自花を咲かし。閩東よりは花が少しく西蜀  
よりは多くなり。人ハ桃と李の花  
と交配して花を咲かせる。閩東よりは桃葉が多  
く、花葉が少く。農政全書曰李ハ  
肥根子よりうるゝ。臘月よりうつむけし日を過ぐ  
うつむけと相付乃ちとらへて。李ハすとくし  
さやりうるべり。すとくしもとく  
きのうものうち。臘月よりうつむけ石毛を引ひきへ  
みる。

連翹

二月より花を咲かし。花は葉より先に咲き  
ほこりくへてつるへと一本立ちする。葉  
生もくらべて獨立すとある。子樹は多  
てとくらべて、又幼木をよどめゆけり。枯死し  
ず。花は葉より先に咲き、花は葉より先に咲き  
あり。花は葉より先に咲き、花は葉より先に咲き

孫桃 順和名抄曰ハムシトウト川草。本草曰。桃  
生すとまことに擗ハ葉は似たり。二月より花を咲かし。花  
解て雪のうへて実百果より出でて熟る。合  
あひしあし四月より葉を落す。在モ

實も丁度あれ葉も少へし。唐人ハ多喜乃へて彈みの  
事く。うき馬力とつづり。日ありてよみ示す。まきはら  
く。やまし。名花譜曰春分中節あり。根とおりて肥土  
より。根をすくへて。根をすくへて。又實も少へし。

宋  
新  
山  
桃  
右  
八  
字  
印  
鑄  
於  
中  
國  
古  
董  
文  
物  
考  
證

ありまへぢて尖きうねるもとれ  
桃のうねるもとれ。ほひあ。

玉蘭花　はくらうらわ　えだらうらわ　じくらうらわ　よくらうらわ

つまもんをめりあひてゐる。國史及道生  
八幡の玉靈もとあるやうにげ先帝よりとつてゐた  
史曰多くりみとす。三月よりむかひをとひ。事  
あゆみ。やがてたちまちそぞくそぞく。アリ。既

三月

桃花 稚柳  
月桃垂絲桃あり。折の肩志云。多事のいと古のうらむ。  
紅桃。赤の桃。白桃。桃の花。桃の葉。桃の実。桃の根。桃の木。  
桃の花。桃の葉。桃の実。桃の根。桃の木。

わちくハ白桃なり。日月桃ハ又金銀桃と云。倭俗  
は蜜桃も。江戸桃も云。梅のうらふ紅花あり。白花  
あり。あらじハ一花のみ。ちよ紅白桃也。白桃  
又蜜桃也。白桃也。白桃也。白桃也。白桃也。白桃也。  
ろひどゆくとてたるも。あり。又蜜桃也。  
もじ黒と紫也。蜜桃也。西王母  
つまみの木の。スネ桃也。蜜桃也。蜜桃也。蜜桃也。  
熱も。寒も。伏見川桃林ハ蜜桃也。蜜桃也。蜜桃也。  
方十石町あり。三五よも。桃也。蜜桃也。蜜桃也。  
りよしく人に人の用。蜜桃也。○齋民要

術。桃と。とは。桃。と。は。桃。と。は。桃。と。は。桃。と。は。  
あり。じよも。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。  
よ。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。  
桃。と。は。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。  
刀。と。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。  
く。と。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。  
り。十七八年。よ。老。い。ナ。斗。よ。ハ。久。經。か。よ。り。し。よ。  
毎年。よ。多。い。農改全書曰。桃。と。は。桃。と。は。桃。と。は。  
さ。ま。く。と。よ。あ。夫。と。ア。ム。ト。レ。ス。ア。リ。ク。ケ。テ。  
ま。く。ア。リ。ア。リ。ア。リ。ア。リ。ア。リ。ア。リ。ア。リ。ア。リ。

は生れゆきとてし。くわくわ。  
入る。うらもとをと。おるお下のゆきともひ  
下。うらうらはまやま。うらねとくも  
見し。根の薑をや。やまうれ。薑もあけも實りと苦  
海棠。三月までとく。野うさおもとて二種  
あり。すみは吉庵考より。根とく。實もあ  
林檎。うさごとく。小なり。夏秋熟り。うさごとく  
あくまでさんみく。まくさんみく。実  
をもとふ海棠。まくさんみく。まくさんみく。根  
月よりく。うさごとく。うさごとく。根

櫛  
木丸ノ歯あり。木丸はハサミ。刃は花さり。  
刃をすり。物を切る。又櫛櫛とよばれ多用あり。

かすり。俗に花をくわんとよ。花ハがけよ。以て實  
をとる。秋のよし。秋のよし。秋のよし。  
味をとる。味をとる。味をとる。味をとる。  
花梨の八角。

梨

力也。元和十四年三月。李白。  
詠白雲章。以之韓退之八千株。之名。稱之東坡。  
一株。名。白雲。也。元和。十。四年。唐。白。  
雲。賦。也。元。和。十。四年。唐。白。

今まくとままでの事も。但唐の習れハモロ  
ミシナリモア。梨八百果乃家ナシテアモリトキ  
モアハナシナリ。アサヒ。内官にアモリトキ  
ナシナリ。アサヒ。肥てやアシナムヒ。雪リ種  
ヒモハシナシ。アシナムヒ。アシナムヒ。アシナム  
シ。雪リ赤ナシナムヒ。アシナムヒ。アシナムヒ。アシナム  
シ。アシナムヒ。アシナムヒ。アシナムヒ。アシナムヒ。  
アシナムヒ。アシナムヒ。アシナムヒ。アシナムヒ。

ひろひろて西立圓もの。まこと見るハ齋本<sup>まき</sup>へく  
き。形絵し花ハ月季花と以て呼ぶ。花引  
くもつゝくして御乃と。誕生八歲日五月乃け  
み抜毛也。戸ももりすりてアシテ。虫モヤバ  
留リ煙灰をすりこむと死生唐人毛浦幸。浮  
遊也。毛浦幸子毛す。浮遊の毛葉あり。毛葉  
毛葉也。毛葉子毛す。かく毛とがくもあ。毛葉  
毛葉又は毛葉多す。すく記毛葉と。毛葉  
毛葉又は毛葉多す。すく記毛葉と。毛葉  
毛葉又は毛葉多す。すく記毛葉と。毛葉  
毛葉又は毛葉多す。すく記毛葉と。毛葉

## 月季花

年。毛葉ももく。花和佐毛葉もく。毛葉もく  
ひくもく花もくもく。消月へもくもく。毛葉  
毛葉もくもく。毛葉もくもく。月月へもくもく。毛葉  
毛葉もくもく。花和佐毛葉もくもく。毛葉もくもく。  
毛葉もくもく。花和佐毛葉もくもく。毛葉もくもく。  
毛葉もくもく。花和佐毛葉もくもく。毛葉もくもく。  
毛葉もくもく。花和佐毛葉もくもく。毛葉もくもく。

多。名花譜曰。根乃新枝けやくわう  
枝べし。すみうちもとけし。してかみをうふと  
酴醿ニヤトヨ花。は草。葉ハ霞紅カスレルビノヒ葉。紹シヨウ茎がみハタケてもく。ば  
あり。草。くさくさ。薔薇ハナハ乃。くさくさ。生薔薇ハナハのあ  
花ハ。うらぎチ。葉。あて。草すひよ。紹シヨウ。又。薔薇社  
母。も。似。く。紅。西。圓。ゆ。ハ。薦。ひ。も。と。い。花。あ。ま。そ  
ハ。う。ん。花。と。く。二。の。よ。い。又。花。ひ。う。に。わ。き  
あり。む。り。し。そ。ハ。う。な。う。り。花。は。あ。」と。身。あ。そ  
え。う。う。し。そ。聖。年。む。く。二。年。と。身。と。理。ま。考。え。ハ。根。  
考。乃。終。よ。内。も。う。る。万。王。蒙。猜。が。詩。よ。開。至。酴醿ニヤトヨ。

花事了ルと云フ。モ自古人ハ少シ。而人ノ美  
院す。モアリ。モアリ。ハ多カタリ。モアリ。  
格物論。農政全書。又。一統考。モアリ。  
ツク。篤信今案。モアリ。海乃。モアリ。モアリ。  
ソモ。ビヒナ。モアリ。モアリ。

簾綠花。蓮生八歲。云。花氣改泥。モアリ。モアリ。  
萬葉。ね。モアリ。アリ。ビヒナ。モアリ。モアリ。  
モアリ。

堺花。小。モアリ。モアリ。二月。モアリ。モアリ。  
茶乃花。モアリ。アリ。モアリ。モアリ。モアリ。

胡蝶花。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
胡蝶花。リリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。

笑靄花。蓮生八歲。モアリ。モアリ。モアリ。

花。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。

棣棠花。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。

け。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。

より高し。古奇にあり。海より樹下生也。又云。湯  
味はまくとぞりの人のものと被てゆくも。全  
身  
よりす。とくへとくまう。指を集めたり。が  
やのままです。ハシメアリ。うつしげ  
りくす。とくらぬひらめくめ。山野  
生す。ハシメアリ。うつしげくあり。まくま  
く。もく。んやく。ハシメアリ。織とくへ。山野  
うつ。根よつて小枝よし。下

草棟宗 カクテイジン 三肩茎を切く。切る。唐棠カタツムリ か  
くちのくで。腕乃くらのく。うねよ

夏ふづく葉。萬葉。宿根又生長する。見ゆる。序  
降地す。根下の太葉けきそほくへと。或葉えよ  
へし。草山れどももうり。おも葉とへし

牡丹 タケニチヨウ 花王と称。花乃を鶯毛ちうわ  
ゆり。張元素曰。牡丹ハ乃天地之精。爲群花之首。鶯信  
寧す。んば花半裏本草。載す。上代よりありて  
唐乃せうち。醫よ。せんこ。上代よりありて  
ゆく。人を考へ。物中白牡丹を珍重す。多有其色。而  
日本多い。人深々とぞ名をうなまむ。ソノ處  
ハカリ殺せ。どうぞ在す。方をとらす。藏玉。



瓦をさり。おは掌をひそめし。毛牡丹とは言  
き。又曰牡丹也。てもを以て鑿て。をめのあは  
鑿乳粉と鑿蜜とをあ。根をすりとすりてあり  
よねへ。墨花色く。うすにまへ白粉の  
あをあみすりて。蟲く。よ。し。くらむ。完  
まへ鑿葉のあひへねり。もむけりて。けりて  
けりて。まみる。或あわゆるをすりて。し  
まく。て。お形<sup>え</sup>ふかで。糞をねぐ。を  
ゆく。あとをく。麝香。桐油。漆氣。をふせ  
根のすりて。ある。りをひく。あく。をかく。

うと。遼生八歲。の。ふ牡丹。散ナ。精良。不。あり。も  
行。を。も。や。り。歐陽永叔曰。ほど。は。八月。秋。風。雪。  
乃。あ。く。う。つ。よ。ハ。よ。士。と。あ。く。き。御。主。を。す  
一。ね。ト。ウ。散。花。ま。い。ハ。少。を。も。ひ。て。去。只。一。二。花。を  
か。く。じ。花。を。ら。て。ハ。や。く。を。難。か。ま。り。を。て。あ。は。ら。  
乃。牡丹。の。聲。よ。千。葉。乃。牡丹。と。づ。へ。し。本。草。綱。目。云  
根。下。自。歎。う。あ。は。つ。く。し。と。去。り。完。内。中。小。硫。黄  
と。入。れ。し。と。こ。ろ。き。い。う。め。く。と。こ。そ。ま。よ。そ。を。そ  
必。拾。る。月。令。廣。義。云。竹。も。と。て。よ。ハ。い。ま。よ。古。玉。

をつけてよし。牡丹ハよもやうとよじくらふ  
○經樹云曰凡花ハ根をまくにまく。牡丹、秋  
牡丹後づて。ばくみもくもくの根をまく  
ど肥土をまくひて根よりりりの省玉よりえてづ。が  
くくくすねる外茎花をゆして、まくらりあままで  
○牡丹ハ糞をりび。肥土は沖すと糞ひか。糞  
さりげも少いとし。但糞を和しましやすくと用  
え根ざらうとすくわたりて。右の土を畠より土と  
えあめをまき。土をうき。至平二月暖よきをく  
ときわくとハ去へし。或曰。牡丹ハ甚濃土をりしかば

くくくのじむ糞小便をくべつひ。取るは土も  
糞のちくし根虫あるをいへし。園史曰。牡丹多の  
間根あり。りとくうるく。糞ぬをうけに在らん  
き。牡丹は小き。子の虫多し。辛味よひをも無  
く。とり去。そあれをうげて花すく。  
牡丹の穴をうは。治記云。先五六月の向うを日  
熱つて。くわくわと根とくうて。根よく  
ゆく。うぐくよくし穴をとくうて。月夜よきをうけ百  
へうを実うるをとよくよきをうけ百

卷中

卷之三

根八やりのちも。ゆきて根をかくら  
ぐれし。或同五年。一枚やり。約のまよへし  
引。心をもとすむ。いわゆる。根八  
まよへし。根をかくら。あ葉をもく。杜  
ほほえ。小根をかくら。根をかくら。うち遠  
く。うりそらふ。うりふ。根をかくら。根をかくら。  
いじ根よ。根よ。根よ。根よ。根よ。根よ。  
みを抜刀と。同く。お。ハ。根よ。根よ。根よ。根よ。  
みよ。根よ。根よ。根よ。根よ。根よ。根よ。根よ。  
根よ。根よ。根よ。根よ。根よ。根よ。根よ。根よ。

フチモトの事ある。もの此方をうりす。モ  
芳草もわす。○東坡曰牡丹もみんに有る  
もし。午後まづわらじ。篤信今事す。しは  
よきとす。巳からば、ひげす。もくは  
まくらぐら。うつむく。午前す。わくよ  
そハ牡丹もある。あくまで。萬葉  
國もいへり。乃紅白を角ひて。パラ  
國ゆく。或曰牡丹ハ多々又有。ジムニ  
もう又多々。あり。また。或  
多至二千。ゆうす。海中ノニキス。も

とえを自らかくめとす。馬車よまたまうよ。赤玉田土八す。等を  
あててまちうるハメ。トヨモトハ根の  
ちきり。ヤマツチ。根を、下より一寸又ふをと  
ふ。根乃をとくもとく。牡丹ハ凡花と見  
え。砂地又やセラム。地よハ案ぢよともなし。或根の先  
乃引ぬ。ダハ多氣をわせ。心腹を多くして  
ゆ。根乃も物別にさざ。おどりハ小便よもとく  
かく。根乃もとく。又系乃匂ひを一あせみ  
く。根乃もとく。根乃匂ひをけと根小く。多氣牡丹

大ふてやまかげ。まよひに梯をとこうしてあつて  
あまきよし。おもひります。

躊躇 三月よもよも。ふれあひし。うそあ

映山紅と稱す。ハち葉落の聲もとて。小音鶯を表  
まべしき。きの宿めをはくやまし。主神ハ御宿より  
下さり。うららか。方ノ山の深浦をいじ。ようと  
ひきよし。ゆきよし。ほのまの深浦を縣。  
あゆも夏の風をだくさん。さりとて。がりくさ  
深浦をけむる。むねをうそすかづらひ。ま  
けゆきよし。まくつまく。まよひとくきく

あきよけをまかし。くわいへしなびひくわれを  
あ。こぼれし。うろく。どくとみて赤きハ  
いつゆを解し。浅川ほし。じゆらき解し。あくせ  
くまう。元げしとくま。赤土乃くち瀬生  
て。くわいけをまかす。え魚乃くちくわとく  
くわくし。けし。三年よ一ね古土とくよ。て。  
根とくみくあひ。おれやううきむれを極  
し。赤おまくらむすが。或まみともせうよ  
て。え四字ありまをす。て。れもとし。の

七日や。林下はも象のくらむの肥を最  
て細めし。つもひかへすも。ほしらはと三界  
ほくにすりて。おのよからして。もぐくもく  
て。肩からいし。或りうりよす。ゆくよ。田畠萬  
てりうけよすも。すう。め田畠がゆよしす  
まよし。或曰は。一月八月よりひるをす  
うと。済。年盡すと。ひーとす。新  
せちーとのひくをむかす。當年の新ねよ移  
すりて。らまし。筋を引。事運すと。う月のま  
あまひ。下旬六月と。旬をと。かねあへ。又は。

ねくを。亦をと。見れば。ト。くくを。かと。せふ  
こゆく。て。ゆく。ひゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。  
とき。と。ゆく。と。ゆく。と。ゆく。と。ゆく。と。ゆく。  
し。百。一。て。百。き。一。済。或曰。極。と。ゆく。と。ゆく。  
ゆく。と。ゆく。不。二。狭。又曰。笑。ま。い。と。ゆく。と。ゆく。  
杜鵑花を。う。と。ゆく。し。と。ゆく。

紫藤 三月乃す。東四月乃す。山。湯。と。ゆく。  
根。土。及。海。の。體。と。つ。ち。う。と。し。さ。と。ゆく。と。ゆく。  
も。し。た。じ。く。ん。ゆ。と。ゆ。と。づ。り。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。根。山。生。量。あ。ま。と。ゆく。

うす。只一茎のまゝへ。茎がけ目を擡げりて  
花をそし。はくゆきとし。源氏物語  
巻裏題曰。美のものづかく。さくらしきやもとを  
よせまくら。あはきにせん。ひそくうつむかすてく  
ちうなまく。わからぬうばかり。おやくは  
くわくわむかし。おもむく。おもむく。おもむく。  
くわくわむかし。おもむく。

花變 系ハ牡丹の形也。むはうす。秋海棠  
寒川。一枝またつる。力て年。三月よむを  
ひ。根とわくらう。風字アガモウ。葉  
うて。月の葉下よだよ。又宿ねとり。無  
えぐて。うしお。あきそむく。梅あくらふ。様  
たりて。身を活。

楓桂 二月よ。花をそし。主に紅葉葉子仰り。遍金露  
葉とし。主に大根株のまゝ。味へ。すまう。露葉よ。う  
しき。赤かよ。

絶句 一窠も。うきを。あいぢり。すま。葉ハ柳葉よ  
。竹。主に。うきを。あいぢり。すま。葉ハ柳葉よ  
。すま。うきを。あいぢり。すま。葉ハ柳葉よ  
。すま。うきを。あいぢり。すま。葉ハ柳葉よ

すま。うきを。あいぢり。すま。葉ハ柳葉よ

まみれ物をとめて。五月よままで。

白蕙ホウエイ 紅葉の花をもつて。葉の裏に白  
い。三月もままで。倭俗の名を蘭。倭俗の名を蘭  
あり。又一絆蕙ハクエイ たりあり。は蘭と一數列經り。  
は蘭ハ萬ひう。萬ハ萬せこし。花おがく。あらん  
ハラキシルハキ。けへひそしげの毛あらん。あらん  
なり。又白蕙あり。げまきをかす。禮ゆう蘭蕙ハクエイ 有り。倭俗をすりにあらんと云ふ。じゆき  
と白と一あまう。茎を白ハ被る。あらまくして。勢  
はうら極く。小便をきく。まぐ。はかどまう。

樹トみす。一而よろしくあらん。

燕子花ホウズイ 福州府志より。倭俗の名をもつて。仁若と云  
ひ。さくらのいぬ。君へ別物なり。かとうとく。紫  
白紫淡ホウシタマ し。白の花を散種す。しらべの瓣。うるひ  
し。又四時よりひく。あり。ともひく。中よより  
園中よき。うちよき。よひあら。黑泥田土よ  
す。大根めをよく。し。又不灰ゆ。根茎。小根す  
き。かわよ。わらよ。ひく。初秋のばく。和名  
燕尾ホウテイ きかく。うら。かく。黒。東よ。ハ。れ。屋。か。傳

又うふ。大風は萱屋の棟を吹あへてひびくともう。又  
射子も、野草あり。因數う。紅葉う。落葉う。

石南花

葉ハトベニ乃葉あるもハトベニの葉よ候。大

きり。花ハ芍藥よ似てやううとえうす紅葉で。す  
よめえう。ふ乃玉玉或赤玉よう。砂土よりれ  
ぞう。生むりつりとて三月よ花づ。

美人蕉

又お蓮とよば花を手離し。今後思

くよまし。室をあらわ。葉ハうろんよ絛。花ハ蓮の  
くみよ絛。主は父の下く。榴花のく。主  
けよ一然す。うらうらすあり。主ひく。秋よ。

